

<取材のお願い>

2023年9月5日

明石工業高等専門学校

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）

さくらサイエンスプログラム推進本部

明石高専生とインドネシア、台湾、モンゴルの大学生による国際協働ワークショップ ～防災対策技術を学び、自然災害発生時に対応するシステム開発を目指す～

明石工業高等専門学校では、9月13日（水）～9月22日（金）、ガジャマダ大学（インドネシア）、ディポネゴロ大学（インドネシア）、プルトミナ大学（インドネシア）、国立高雄科技大学（台湾）、モンゴル工業技術大学附属高専（モンゴル）から、工学を専攻する大学生を3名ずつ、計15名を招へいし、日本の高専の学生たちと共に自然災害への対策技術を学ぶ国際協働ワークショップを実施します。

自然災害は地球規模の課題です。今回招へいする3カ国・地域においても、地震、津波、洪水、火山噴火、森林草原火災、雪害など、それぞれが深刻な自然災害に直面し、対応するための総合的な防災技術が求められています。

日本は自然災害大国であり、防災技術や防災教育に関して先進国です。明石市周辺は、1995年の阪神・淡路大震災で甚大な被害を受けました。以降、本校では「防災リテラシー」（災害を理解し、適切な対応をとれる能力）という必修科目を設置し、防災に関する教育に力を入れています。本プログラムでは、それぞれの自然災害発生時にどのような問題が生じるかを考察し、エンジニアリングデザインの手法を用いて、各国・地域混合のグループごとに問題を解決するためのシステムやツール、アプリのプロトタイプ（試作品）を作成します。

本校では、新型コロナウイルス感染拡大により海外との直接交流を停止していましたが、本プログラムが本格的な再開となります。プログラム期間中、招へい学生たちは本校国際寮にて日本の高専の学生と共に合宿生活を送り、学生間の友好関係を深めます。将来に向けて双方の学生たちが積極的に交流を継続することで、自然災害をはじめとする世界規模の問題解決の契機となることが期待できます。

本プログラムは、科学技術振興機構（JST）主催の「国際青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプログラム）」*に採択されたものです。

*「国際青少年サイエンス 交流事業（さくらサイエンスプログラム）」科学技術分野における日本と海外の青少年の国際交流を推進する、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の事業です。2014年の事業開始以来、約35,000名以上の青少年が来日し、そのうち約7%が学術や就業を目的として再来日しています。 <https://ssp.jst.go.jp/>



つきましては、参加学生たちが防災リテラシーについて学ぶ様子、各国・地域における自然災害の問題点の共有から解決のためのプロトタイプ作成までの過程、成果発表プレゼンテーションの様子などを取材していただきたくお願い申し上げます。なお、実施担当の藤原誠之教授へのインタビュー取材もアレンジが可能ですので、ご希望の方は担当者までご連絡くださるようお願いいたします。

- 【実施内容】**
- 防災リテラシーの講義
 - エンジニアリングデザインの講義
 - 各国・地域における自然災害の問題点共有と課題の選出、課題に対する問題点抽出、提案のコンセプト策定、プロトタイプの作成
 - 京都訪問
 - 成果発表プレゼンテーション、意見交換会

【研修日程概要】

9月13日(水)	午前：入国・移動 午後：オリエンテーション
9月14日(木)	午前：防災リテラシーの講義 午後：エンジニアリングデザインの講義
9月15日(金)	午前：各国・地域における自然災害の問題点を共有 午後：課題の選出
9月16日(土)	午前：学外での防災学習 午後：学外での防災学習
9月17日(日)	終日：文化交流ツアー（京都訪問）
9月18日(月)	午前：課題に対する共感、問題点を抽出 午後：提案する作品の仕様、コンセプトを策定
9月19日(火)	終日：プロトタイプの作成
9月20日(水)	午前：プロトタイプの問題点を改めて議論 午後：プロトタイプの修正、成果発表プレゼン資料の作成
9月21日(木)	午前：成果発表プレゼンテーション 午後：閉会式、文化交流ツアー（姫路城）、意見交換会
9月22日(金)	午前：学生寮退去作業 午後：離日

■本件に関する取材申し込み・お問い合わせ先

明石工業高等専門学校
(担当：吉見)

■国際青少年サイエンス 交流事業（さくらサイエンスプログラム）に関するお問い合わせ

JST さくらサイエンスプログラム推進本部企画運営室
(担当：田中(禎)、太田)